

(答弁書第三十五号) 昭和二十二年八月二十三日配付

内閣参甲第四〇号

昭和二十二年八月二十二日

内閣総理大臣 片山 哲

参議院議長 松平恒雄殿

参議院議員小川友三君提出鉄道(國鉄)の赤字防止に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

參議院議員小川友三君提出鐵道(國鉄)の赤字防止に關する質問に対する答弁書

國有鐵道の運営は、企業獨立採算制の原則にしたがつてなされることが必要と考えられる。

これがためには先ず國鉄内部の經營の合理化をはかり、なお不足する經費の財源は適正なる運賃收入に求めることが妥當と考えられる。

本年度において國有鐵道は損益勘定で赤字百數十億圓を生じるのであるが、その原因は、主として主要物價に比し運賃が非常に低廉であるためで、これが解決は、運賃値上に求めることが企業運営の常道である。

しかし、運賃は價格構成の基礎となるものであるから、他物價に対する影響、國民生活に対する影響等を考えると慎重に扱わなければならない。

今後經濟諸情勢に対応して、具体的に対策を講じて行きたいと考えているが、運賃値上を行う場合、旅客運賃についてのみ行うことが適切であるかどうかは、そのときの事情により決定さるべきことで、いちがいに決められぬと考える。